

作品ID	巻	内容	所有	出版社
149	傷	「その夜の雪」定町廻関7森口慶次郎が、半月後には娘の三千代に婿を迎えて臨時廻りになるという時、三千代は男に乱暴され、自害しました。慶次郎は、そのツネと呼ばれていた男を探し出し、殺してやると誓いました。		新潮文庫
150	再会	「恩返し」円光寺で慶次郎は、九右衛門という男と養子の田島屋道三郎と知り合います。その後慶次郎は、三杵屋という店に泥棒が入り、二百両盗まれたが主人は何も盗まれていないと言っている、と臯月から聞きます。三杵屋の主人・茂八は、親戚筋の人を殴りつけたということですが、その親戚の者とは道三郎で		新潮文庫
151	おひで	「ぬれぎぬ」料理屋から帰る途中、晃之助は若い男に襲われます。男は、公事師の増田留三郎で、晃之助の昔馴染みの女・おオオが惚れていた男でした。留三郎は、おオオが所帯を持つ約束を反故にしたのは、晃之助のせいだと思っていました。他11話。		新潮文庫
152	峠	「峠」峠で追剥を谷へ突き落とした薬売りの四方吉。亭主の宗七を探しに来たというおつぎと出会ったおいと。おいとの弟・和吉は、薬売りを刺して遠島となり、亡くなっていました他7話。		新潮文庫
153	蝸	「綴じ蓋」漬れ百姓で「花ごろも」で働くようになった矢作に、お登世は所帯を持たせようと考えます。しかし矢作は、地獄宿のおつゆという年上の女のところに通い詰めていました。		新潮文庫